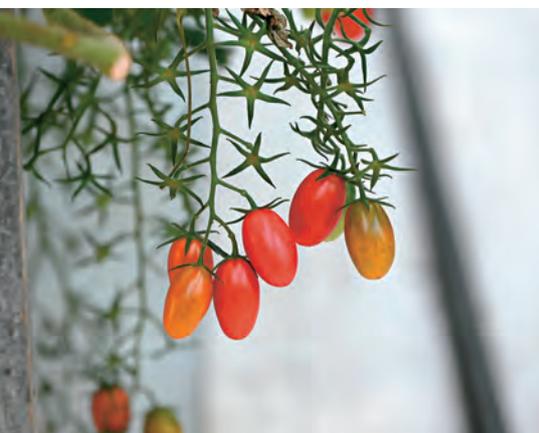




↑震災を機に多彩な品種のトマト栽培に乗り出した、社長の船生典文さん。



↑ナツメ型で濃赤色に色づく「千恋」。



↑猛暑の続く7月30日に定植。順調に生育している。

農業生産法人あかい菜園(株)
サクツとした食感が魅力
へたなし流通可能で、省力化にも貢献

「千恋」

(編集部・「取材・文・撮影 三好かやの」)



地域概況

福島県いわき市は、浜通り地域最大の都市で人口約32万人。市内に15の工業団地を擁し、製造業が盛ん。温暖で日照時間の多い気候を生かした農業への企業参入も多く見られる。1990年、東北初となる大型施設を利用したトマト栽培がスタート。現在は6社で「サンシャイントマト出荷協議会」を結成し、全社がJGAP認証を取得。大型の環境制御型施設を活用した東北屈指のトマト産地を目指し、ブランド化を推し進めている。

震災をきっかけに多彩なトマトを栽培

福島県東部。太平洋に面したいわき市には、1haを超える大規模なトマトのハウスが点在し、「サンシャイントマト」の名で全国へ出荷しています。赤井地区に位置する、あかい菜園(株)もそのひとつ。2009年12月に大型ハウスを建設。当時33歳の船生典文さんが、社長に抜擢されました。当初は大玉の「桃太郎はるか」を栽培していましたが、2作目に入った2011年3月、東日本大震災に見舞われます。

その1カ月後、船生さんは東京・新橋で開かれた復興イベントでトマトを販売。都会では大玉よりミニトマトの方が、売れゆきがよいことを実感します。これを機に、大玉、中玉、ミニ、大きさだけでなく、オレンジ、イエロ1、グリーンなど、多彩なトマトの栽培に乗り出しました。

環境制御型の施設で真夏に苗を植え付け、養液を各ベッドへ送り込んで栽培。約10カ月間果実をとり続ける作型で、栽培面積は1.5ha、年間約20種、約300tを生産しています。

サクツとした食感へたなしの「千恋」を導入

2021年からはミニトマトの「千恋」に取り組み始めました。果形は縦長のナツメ型で、果皮はツヤのある濃赤色の特徴。さらに、へたの部分が高品種と比べてきわめて小さいため、汁もれ、傷みが少なくへたなしでの流通が可能です。試作の1作目は200本、2作目は400本、3作目は800本の苗を植え付けました。

「これまでの品種にないサクツとした食感は新鮮なので、きつと喜ばれる」従来の糖度重視のミニトマトとは異なる個性があり、トマトを食べ慣れてる人も、もう1個食べたくなる。さ

多彩な品種を栽培

→
赤、オレンジ、イエロー、そしてグリーン。
カラフルな彩りのミニトマトを栽培。



↑機能性成分リコピンを豊富に含む中玉ト
マト「フルティカ」も栽培。



↑多彩な品種の「ミニトマトミックス」は人気
が高く、パックに詰めて出荷。



↑栽培面積は全体で1.5ha。集荷場には、収穫を終えた大
玉、中玉、ミニトマトが集まる。

2.5坪の直売所が大人気



↑菜園入口に設けられた直売所。他所では手に入らな
い品種も多く、いわき市民の人気の的。



↑色とりどりの大・中・ミニトマトに、加熱用品種を
加えたセットは、贈答品としてのニーズも高い。

震災と2度の 台風を乗り越えて

かつて自動車関連企業で、エンジニ
アとして活躍していた船生さん。トマ

らにリコピン含有量も高く機能性成分
を豊富に含む「ファイトリッチ」シリ
ーズの一員でもあります。
栽培面では発根力が旺盛で草勢が強
いため、株疲れが少なくコンスタント
に収穫できるうえ、裂果も少なくて作り
やすいと感じた船生さんは、来シーズ
ンはさらに作付けを増やす予定です。
近年は、衛生面を考慮して、「千恋」
のような「ヘタなし」のミニトマトを求
める取引先が増えてきているのだとか。生
産現場の担当者はヘタの「ある・なし」
を気にせず収穫できるので、作業の省
力化にもつながります。

トの栽培は、まったくの素人でしたが、
先に大型施設での栽培に着手していた
先輩たちから多くを学び、栽培と経営
に取り組んできました。
元々「数字を見るのが好き」でデータ
管理が得意。日々作物の状況と温度、
湿度、日射量、地温、水分率等、デー
タを確認しながら、栽培を続けていま
す。設立から2作目で震災に遭遇。さら
に2019年と2023年の台風に見
舞われました。19年の台風でハウスは
2m冠水。からくもハウスの骨組みと
屋根は残りましたが、栽培に必要な設
備は総入れ替えが必要で、社内の担当
者が図面を引き、資材を発注。地元の
仲間や資材メーカーの協力を得て急ピ
ッチで復旧を進め、被災から2カ月後
には、苗を定植していました。

社長として億単位の融資を受ける覚悟
と実績、そして仲間が必要です」
**大きな実績を
小さな直売所で**
その「大きな実績」に欠かせないのが、
2・5坪の小さな直売所。いわき市民
を中心に連日100〜200人が購入
目的に訪れています。棚には多彩なト
マトが並んでいて、実にカラフル。こ
れを詰め合わせたセットは、地元の人
たちの間で「手土産」品として人気の的
になっています。
同社の売上は全体の6割を系統出荷、
残り4割をこの直売所が占めています。
お目当てのトマトのセットはもちろん、
規格外や過熟ぎみのトマトも「ソース
用に」と求める人がいて、廃棄ロスは
0に近く、ほぼ全量売り切っている
そうです。

「千恋」に手応えを感じつつ、大玉は
「桃太郎ネクスト」に加え「桃太郎はる
か」「桃太郎ブライト」を栽培中。中玉
は「フルティカ」を導入していますが、
養液のEC値を高めに設定して栽培し
たところ、順調に肥大して色回りもよ
く、さらに収量も上がりました。
多彩なトマトを提供し、その違いを
誰もが楽しみながら味わえる。いわき
市は今や「大型施設栽培トマトの先進
地」になろうとしています。